

第2回土橋自然観察教育林連絡協議会議事録

日 時：平成25年6月11日（火）19時00分～

場 所：厚沢部町図書館視聴覚室

参加者：北川広幸（教育委員会事務局主幹）、石井淳平（社会教育係）、水本絵夢（教育林コーディネーター）、協議会員4名

協議事項要点

1. 樹名板作成案の再検討について

(1)デザインは、資料2の「樹名板デザイン」をベースとする。

(2)和名と通称、花期、自生しているかしていないかのマーク、本文には形態的な特徴、豆知識的な一文、用途を箇条書きで加える。

以上を樹名板を基本とする。

(3)第1見本林は入門用と位置づけ、ラミネートした葉っぱや花の標本を添付したり、クイズ形式とする。

子供向けや自然に興味のない人も興味を持つような入門用の樹名板を作る。

第1見本林の樹名板等設置作業は次年度に実施する。

(4)樹名板だけではなく、手持ち資料の作成や観察会を実施していくことで充実を図る。

(5)手持ち資料は毎月3樹種ずつ程度作成し、約3カ年で完成させる。

2. その他

(1)遊歩道上の地図とコースマーク

- ・コース上の地図には現在地を示す
- ・分岐点には森林展示館への方向と所要時間または距離を示す。
- ・分岐点間にはオンコースマーク（森林展示館への方向と距離を示した案内札）を設置

(2)緑町の公園にあるゲートの立入禁止看板紛失

現状：緑町の公園のところにあるゲートの立入禁止の看板がなくなっている。

対応：現状を確認の上、立入禁止看板を再び設置する。

議 事 録

1. 協議事項 樹名板作成案の再検討について

会員 A：前回の協議会で話し合った結果では住民参加でやるのは良いことだと思ったが、樹名板の目的を考えると住民参加という方法をとるのはあまり良くないのではないかと思った。もし、樹名板作成までに時間があるなら、あらためて樹名板の内容について協議をしたい。どのような樹名板にするのかは見本林の使い方がまずはっきりしないと、せっかく作ったものが最終的に利用されないことになってしまう。

水本：樹木見本林についてこれからどのような目的で、どのような方針をもって利用していくかを話し合っていきたい。今ある樹木見本林は、資料1の「樹木見本林概要」のとおり樹種と配置となっている。樹木見本林は、かつて営林署が苗畑として利用していたところに国内樹種と海外樹種を1966年から70年に植樹し、営林署職員の自己研鑽場として利用してきた。町有林になってからは具体的な利用はないという現状となっている。これまでも

見本林をどうするかという議論は続いていと聞いている。今年度の事業予定として樹木見本林を活用するための作業を行なっている。樹木見本林をどのように使うという方法を決めなくても、今現在欠落している樹名板を設置する意義はあると考えられる。また、樹名板と併用できるような手持ち資料を作ることも考えている。協議事項 2-(3)は、水本が考えた樹木見本林の使い方。今月末の観察会では樹木見本林を活用した内容を予定している。樹木見本林は、短時間で利用者に植生などを解説できる場として活用できるのではないかと考えている。目的と対象者を整理すると考えやすいかもしれない。

会員 B：(3)であげた以外に、一人で来る人が自習できるような使い方ができるような活用をしたいが、事前に来る人の目的を予想することは難しい。汎用性をもたせた活用が望ましい。純粋な観察会だけではなく、ネイチャーゲームなどソフト面で充実した活用をしていく。函館山では木村マサ子さんなどが独特の活用を行なっている。私が最初に教育林に来たのは樹木の勉強をしようと思って来た。他に道南に代わるものがなかったので非常に良かったが、資料が何もなかった。結論を言えば、看板をどうするかという話はその後で良いと思う。必要最低限の安いものにする。林内の地図などは設置する前に案が決まっていて、全然町民の意見が取り入れられないものになってしまった。図の様式が決まっている。

会員 A：まずは樹名板を設置してみるというのがひとつの案。名前があるとそれを覚えることから親しんでいくという発想もありだと思う。

会員 B：あとは手持ち資料を充実させていく。

水本：樹名板を設置することによって活用方法が決まってくるという面もあるのではないと思う。

会員 A：最終的に方向性が見えると良い。道南にはこういう見本林はないのか。

会員 B：元営林署職員の高橋さんの本ではこのような見本林はないとされている。

会員 A：樹木見本林の価値があることが知られていないのだから、使い勝手を決めようとしても決まらない。

会員 C：林業試験場の見本林は見てみたい。

会員 B：先日なくなった辻井達一さんが来町した時に、サワグルミが多いのでクルミの樹種を揃えてはどうかという提案があった。

会員 A：とりあえず樹名板をつけるとしてどのような案で作るか。

水本：先日の案は、カラーかモノクロかという択一だったので、今回は図や写真は抜きで、これだけあれば樹名板として活用できるという最低限の内容でデザインしている。ここで記載する情報は、もっとシンプルな形で種名、学名、名前だけという話だったが、産地とかがわかるよい。

会員 B：表現として産地ではなく分布とされている図鑑が多い。樹木の由来がわかるなら産地という表現となるが、そうでなければ分布でよいのではないか。

水本：観察の仕方とか観察ポイントを入れておくと、実際に来た人が触って体験できるので、一文か二文このような文章があると良いのではないか。

会員 B：和名が面白いので好き。本文に入れるのではなくて、樹名の下あたりにかっこ書きして和名をいれたらどうか。北大植物園などでは材の利用やアイヌの利用方法について説明があるが、それがどうかはわからない。

水本：アイヌが使っていたものだとそのような説明を入れても良いが。

会員 B：樹名板には見分けるポイントだけを書くようにして、それ以上の詳しい説明は手持ち資料に譲るとしたほうが良いかもしれない。

水本：樹名板に記載する内容を具体的に検討するにあたって、ワークショップとして、実際の樹名板の本文を作成してもらいたい。作文用紙に、別紙のイタヤカエデの情報から樹名板をつくるとするとどのようなものになるか、実際に作文して欲しい。

石井：具体的な資料、樹名板に必要な情報は何か、ということを考えるために資料をつくりたい。

会員 A：自分がひっかかるポイントを書き出すだけでよいのか。

水本：樹名板として必要な情報として何が必要かを考えて書いて欲しい。

会員 D：どういう人が来るか、どういう人にみせるかということがこれまでのデータからわかる

のか。厚沢部に来た時にレクの森に来たが、私自身は散歩感覚。樹名板の意味を捉え、樹名板を求める人が何を求めるかを明らかにしないと作文は難しい。森に来る人たちのうち学問的に興味を持ってくる人が多いのではないかと思うが、樹名板の説明文だけを読んで、実際に樹木の観察ができる人がどれほどいるのだろうか。樹名板を作るテクニックばかり追求しても意味がないのではないか。

会員 B：これは良い試みだと思うが、我々の興味だけで記述して良いのか。

石井：樹名板として教育林に来た方に対してどのような説明が必要か、という視点で記入して欲しい。

会員 D：どのようにアピールするかというテクニックを話し合っただけでは不十分だ。樹木見本林に来て欲しい人にアピールする運動などはしているのか。来てもらうために樹名板をつくるとともに、見本林に来てもらうための取り組みが必要なのではないか。

会員 A：シンプルな名前だけのものを作っておいて、何を載せるかを後で決めるという手順ではどうか。

水本：見本林を利用する機会を作ること、観察会を実施するというで利用を増やしていきたい。ある程度の情報があると説明も面白いし、名前だけだと素通りしてしまふ。

会員 B：あまり使うことがない情報を掲載する必要がない。なぜ文字で説明するのか、という点が疑問。キタゴヨウとゴヨウマツの違いが分かればよい。みんな目の付け所が違う。情報の入口だけヒントがあればよい。葉っぱの絵を書いてもらいたい。冬芽と葉っぱと花の絵を書いて、文章は箇条書き。葉っぱが先が割れているとか実の形、花の形は5月中旬だとか、木の高さなどを情報として提示できれば良いのではないか。

会員 D：専門的な人は図鑑を持って歩いている人はいるけれど、そういう人はどの程度いるのか。見本林を訪れるのはどのような人たちか。

石井：学校の先生に引率されてくる小学生と、ある程度興味があり目的がある人が入林者の9割を占めていると考えられる。

会員 D：樹木に関心のない子供たちに何を訴えるのか、知ってほしいという意図が必要。情報がまったくばらばらではいけない。伝えたいという意図が必要。

会員 B：教育林では何を覚えて帰って欲しいかという、針葉樹の違いを覚えて欲しい。重要な5～6種類の樹種を覚えて欲しいと思う。町は目的を明らかにして欲しい。

会員 A：元営林署の高橋さんが見本林を使って観察会をしていた時にサワラやヒノキのような同じグループの樹種の違いを説明してくれた。樹木見本林は数メートル歩いてそのような樹種の違いを実感できる場所だ。図鑑などがなくてもサワラやヒノキ、ヒバなどが分かれば良い。興味を持った時に見本林を使えばよいので、知りたい時に知ることのできる最低の情報でよい。図鑑は持ってくる人が多いけれど、調べ方がわからないと使い勝手が悪い。名前が分かれば良いのだけれど、名前がわからないと調べようがない。情報がたくさんあっても使いようがない。見本林の樹名板は名前と、特徴、決定的なものがあればそれを入れる。

会員 A：季節季節でヒントになるような情報を載せれば良い。花、葉っぱ、実、花。高橋さんが作った樹名板は裏返しにして「この木は何でしょう」という面を表にしていた。

会員 B：ひっくり返すのも面倒くさいという人もいるので、あれが良かったかどうかはよくわからないが。

水本：第1見本林と第2見本林があって、展示館に近い第1見本林はクイズ形式とか町民参加の絵を使った樹名板も良い。樹木を関連付けて、サワラとヒノキの見分け方などは樹名板では書ききれないので別に表現する。

会員 A：樹名板は決定的な特徴を表して欲しい。

水本：キタゴヨウだと分布と用途、生態的な特徴を書いているが、形態的な特徴に特化したほうが良いか。

会員 A：絵を書くのはどうだろうか。

水本：図鑑の絵などは著作権上の問題があるので使えない。

会員 B：花の時期が必要。

水本：花期があるなら果実期もあっても良いのでは。
会員 B：自分が図鑑をみるときには花の時期と高さを参考にして決める。葉っぱの見分け方も大切で、冬芽と葉っぱは大切。細かいことを言ったらきりが無い。
会員 D：カエデも国内に 26 種類あるから見分けることが大変。
会員 A：違いがわかると楽しい。
会員 B：葉っぱの絵があるといいのだが。
会員 A：主要な広葉樹だけでも描いてはどうか。写真をトレースして作成してはどうか。
会員 B：絵が描けないものは、実物を樹名板に貼り付けたらどうか。
水本：第 1 見本林でそのような貼り付けたりする作業をおこなってはどうか。
会員 B：第 1 見本林だけですむように入門向けの木を第 1 見本林に植えたらどうか。
水本：第 1 見本林は入門的な位置づけで考えてみたい。
会員 B：第 2 見本林は針葉樹が多い。
会員 A：第 1 見本林から手をつけて第 2 見本林につなげていくということでどうか。
水本：漢字名、花期、特徴を書いた短文を樹名板の記載内容とする。
会員 B：キタゴヨウなら盆栽松の話は面白いが、岩石が露出する尾根という情報もあまり興味ない。
水本：形態的な特徴と豆知識で構成するという考えで考えたい。
会員 B：箇条書きにすると他の木とすぐに比較ができるので見やすい。
会員 D：樹木の用途に興味がある。この木がこういう用途に使われるということがわかると面白い。
会員 A：厚沢部に生えているかどうかは必要か。
会員 B：マークとかで表示するのはどうか。
会員 A：むしろ自生していない樹種をマークしたほうが良いのではないか。
水本：デザインは、資料 2 の「樹名板デザイン」をベースとする。和名と通称、花期、自生しているかしていないかのマーク、本文には形態的な特徴、豆知識的な一文、用途を箇条書きで加える。以上を樹名板を基本として、第 1 見本林ではラミネートした葉っぱや花の標本を添付したり、クイズ形式とする。子供向けや自然に興味のない人も興味を持つような入門用の樹名板を作る。樹名板だけではなく、手持ち資料の作成や観察会を実施していくことで充実を図る。
石井：いつ頃実施可能か。
水本：プリントを 1 枚ずつ作成していき都度継ぎ足していくイメージ。
会員 B：1 月 3 樹種ずつ作成したとして、30 ヶ月なので約 3 年。毎月の観察会ではトピックとして樹木見本林を使った観察を導入として行い、活用するのはどうか。道南林試の担当者の方の専門性を確認して協力依頼して欲しい。
会員 C：見本林に見本林の由来や説明が欲しい。
石井：見本林の入口に見本林の説明板が必要だ。
会員 A：見本林に登る林道が退屈なので、営林署の高橋さんは林道沿いの低木に樹名板を作成していた。誘いこむようなものがあると第 2 見本林までいけるかもしれない。
石井：第 1 見本林は手作りの形式で作業をすすめることとする。

2. その他

(1) 遊歩道上の地図とコースマーク 4

会員 B：春先に教育林に行った時に小沼を渡りきったところに遊歩道に地図があって、そこに番号がついていて、その場所が何番がなのかわからない。地図上に現在地の表示がない。
会員 A：お店に来たお客さんが何度も迷っている。
会員 B：毎年のように前のコーディネーターにも言っていたが、どちらへ行ったら出口なのかを示して欲しい。奥の三叉路は迷う人がいるのでそこだけはなんとかして欲しい。子供は地図を読めないから。矢印と出口がわかるマーク。

石井：あとオンコースマークが必要。地図の現在地を示す表示と森の出口を示す標識は、来週中（6/22頃まで）に設置する。

(2)緑町の公園にあるゲートの立入禁止看板紛失

会員 C：みどり町の公園のところにあるゲートの立入禁止の看板がなくなっている。散歩がてら迷い込んでしまう人がいるかもしれないので、再設置を希望する。